

■ 報告 ■

今日来る予定だった実行委員長の澤田美枝さんが、何十年か前に黒澤明監督の「夢」という映画で、狐の嫁入りのシーンを観て、やりたいと単純に思った、この「狐の嫁入り」が、赤岡の古い商家が並ぶ町並みに合うんじゃないか、と。これをどうしてもやりたいということで平成8年に狐の嫁入りを始めた。始めてみると、赤岡にわらべ歌が残っていて狐の嫁入りが出てくるとか、近くの祠がお稲荷さんだったとかという関連がどんどん出てきて、やはり、やってみて良かったなということがありました。

地元の女性グループ馬駝夢(まだむ)がメインになって主催し、この祭りを企画しています。先ほども言ったように赤岡の町並みを活かしたお祭りをすることによって、赤岡に人がたくさん来てくれたらいいなということを目的にしています。そして赤岡に残る絵金の絵を収蔵する絵金蔵とも協力をして、今回は〈夜市〉、〈夜ののきさき美術館〉などアートとコラボした企画も実施しすることができました。

県外でも、全国的に狐の嫁入りはいろんなお祭りをやっているんですけども、僕たちのお祭りは顔面に直接白塗りをして狐の顔を描くということをしています。地元の子どもにも参加してもらってます。〈夜ののきさき美術館〉では村岡マサヒロさんとデハラユキノリさんの絵を赤れんが商家の軒先に飾って雰囲気味わってもらおう企画をしました。ライブペイントイベントで、香美市出身の漫画家・正木秀尚さんのライブペイントというのも実施させていただいて、外国や県外から来た方など、人だかりができ、結構人気がありました。絵金蔵とコラボしてオープンカフェやハンドメイドで作ったランタンの展示などもして盛り上がりました。

参加者からはこのイベントのために県外から来られたお客様もいらして、全員にアンケートは取れなかったのですが、お祭りが終わった後、聞いたところ、北海道からこのお祭りのためだけに来ました、東京から来ました、愛知から来ました、など県外から来られた方がいて嬉しかったです。地域の人声は、普段静かな町並みに活気が出てきて嬉しかったと。赤岡の町に来られたことありますか。平日来ていただいたり、夜歩いてみたら分かると思うのですが、本当に猫一匹通らなくて、すごく怖いのですが、それがこのお祭りにマッチし、夜の風情のある商家というのが提灯やロウソクの明かりに照らされて、すごく雰囲気のあるお祭りになったと思います。

今回、助成金をいただいて一部衣装なども手に入れました。写真で見ると綺麗なんですけど、女性が着ている打掛けや、男性が履いている袴は、弁天座さんから借りています。普段使われてないのですが、弁天座ができた当時、地域の人が自分の蔵の中にある衣装を、使わないので使って、といったもので、それを借りて使わせてもらっているのですが、お蔵の中にあつた袴や着物は100年くらい前のもので、出して着ようとしたらと割けたりしてボロボロなのです。大事にしていきたいのですが、助成金のおかげで少しプラスして、より進化していけたらいいと思います。

■ 視察者の意見 ■

想像以上にたくさんのお客様がおられて、かつ非常に非日常的な空間が出来上がっていたと思いました。幻想的でした。県外からも来られたと聞きましたが、夜のイベントというのは、宿泊、飲食、お土産、と一番地元にお金が落ちる形かと思います。絵金蔵が最たるものだと思います。このような取り組みを継続し、出来たら隙間なく続いていくと賑わいがどんどん増えていくという気がしました。今後も「狐の嫁入り」は継続していくご予定はありますか。(事務局職員)

ー2年おきにやりたいとは思っているのですが、主催の馬駝夢の方たちが今回も「私たちもう辞める」と言うのを何とか奮い立たせて、教えてくださいと。よさこい祭りほど大きなものでなくても、何とか文化というものが続いていけばいいなと思い活動しています。

■会場からの質問・意見■

●デハラさんや村岡さんに対する謝礼はどのようにされていたのでしょうか。

ーデハラさんと村岡さんにつきましては、新作ではありません。10年ほど前の「えくらべ展」というイベントの際に屏風絵を現代作家さんに描いていただいて、その作品を絵金蔵で預らせていただいております。それを再度展示させていただくという形でしたので、作家さんにはもちろん許可を取ったうえで、謝礼はなしで展示させていただきました。今回「夜ののきさき美術館」で展示させていただいた作家さんは新作なので謝礼を支払っています。

●絵金蔵の関わりがどの程度あったのか、絵金蔵の学芸員さんのお仕事とかどのような感じだったのか教えていただけたらと思います。

ー高齢者が多いので「若者集まれ」というと、僕だけが一人でテントを組まなければいけない状況なので、今回、絵金蔵の学芸員や、声かけをして、テント設営であったり提灯を吊るすであったり、夜集まって練習をする活動の仲介であったり、場所の提供なども一緒になってやってきました。

●今の話、すごくいい話だと思っていて、僕は県外から来ているのですが、地域のことに関わりたいなと思っている部分が結構あり、赤岡に行って狐の行列やりたいと思った時の受入れはどのようになっているのでしょうか。

ー前は実行委員が地元の人たちにオファーに行く形でした。2年前、YouTube にあげた時10万回再生あり、絵金蔵にも問い合わせが頻繁にあって、「次いつあるのか」「私もやりたい」などあったので、今回は絵金蔵のホームページで参加者を募って、高知市と南国市の方にも参加していただきました。

●提灯付けたい、実行委員会に参加したいという方も出てくると思うのですが、どのような感じでしょうか。

ーふらっと来て、やりたいですと言っただけいたら、大丈夫です。